

「中野区グローバル戦略推進フォーラム2016」開催

平成28年3月28日、明治大学中野キャンパス5Fホールで「中野区グローバル戦略推進フォーラム2016」を開催しました。

2回目となるフォーラムはグローバル都市を実現するための具体的取組みにつながるよう、第一線で活躍する方々をゲストに迎え基調講演、パネルディスカッションを行いました。

当日は当協議会メンバーをはじめ212人にご来場いただきました。



基調講演1「ICTで広がる食の都市観光」

株式会社ぐるなび 創業者・代表取締役会長 滝久雄氏

株式会社ぐるなびの創業者・代表取締役会長で、規制改革会議委員も務めておられる滝久雄氏にご講演をいただきました。

滝氏は外食産業の特徴として「約3割のお店が常に変わり、その3割を補強しながら頑張つていかなければいけない。非常に情報過多な世界の中で、日本の外食が特にインバウンドで極端に目立ってきているのは、非常に高い食文化が存在していることの証といえる」と日本の外食産業が高い価値を有していることと語り、**本日の情報を出し続ける情報屋**と語りました。

またその価値を保有する要因として、味に敏感な一番の要素である亜鉛の摂取量が日本人は世界で1番高いといわれていることを挙げ、「味に敏感な舌が日本の調理技術を育ててきた」と石川県立大学、西澤教授の話を変えながらご紹介いただきました。

「ご自身で経営されている「ぐるなび」については、食文化を形成している個店の



のサポーターであり、情報問屋として発展してきたことを述べた上で、ICT活用に伴う商売の変化について「これまでのお店は立地条件がほぼ全ての状態であったが、表通りに立地をしていなくてもICTの活用により、個店はメニューやクーポンなどサービスに資金を使えるようになった。今はいろいろなサイトを参考にしながら、行く店を決めることができるようになったため、お店の情報が多そうなサイトが最終的に選ばれる」と述べられました。

その上で「ITの時代では今日のもの以外は『情報』ではない」ということで、同社では本日の情報を出し続けられる仕組みをお店と一緒に取り組み開発してきたこと、また、その仕組みを上手に活用しているお店では、インバウンド客を取り込んでいると情報活用の重要性を重ねて言及されました。

最後に滝氏は今後の飲食産業の今後について「今よりもおいしい物が食べたいということで、リピーターが増えていく。これからの時代は団体旅行よりは、FIT（※1）、個人旅行が大事な時代ではないだろうか」と今後の展望を述べられました。

（※1）FIT (Foreign Independent Tour) : 団体旅行やパッケージツアーを利用することなく、少人数で海外旅行に行くこと。

基調講演2「ぐるなびのインバウンド戦略」

株式会社ぐるなび 執行役員 杉山尚美氏



杉山氏は外食産業の市場規模が平成9年の29兆円をピークに下がっていることについて触れ、その対応策の1つとして、平成25年からインバウンド事業をスタートしたと語り、同社の貴重な調査データなどを使いながら、「ぐるなび」外国語版「ホームページ」のリニューアルにあたり苦心されたこと、鉄道・運輸・航空会社などと連携して情報発信サービスの強化に向けた取り組みをご紹介いただきました。

観光資源である

地域の食を発信

杉山氏は同社のデータを分析され、中野区の飲食店分布は「和食（寿司、鍋）が一番多く約28%、居酒屋が約17%、カフェ・ファストフード関係が約12%。パフエ、パールも非常に増えており約10%。その他、洋食（イタリアン含む）、ラーメン・つけ麺が多い」とし、さらに中野のお店の座席数についても「30席未満の店が約30%、40席未満になると約50%にもなる。東京都全体で30席未満が15%20%。中野は多種多様な飲食店の集合体である」と述べられました。

同社では外国人観光客の増加に伴い飲食の消費額に注目していると述べた上で、観光庁の発表によると「平成26年のインバウンド消費額約2兆円のうち飲食の割合が21%、平成27年が約3.5兆円でうち18.5%が飲食の消費額とされており「少ないと感じている」という。海外から日本に来る一番の目的が食で、また来たい理由も食であり、最も満足したのも食と言われている中で飲食消費額が20%前後というのは、まだ外国人観光客に情報が伝わっていない、お店の受入れ環境が整っていないなどの要因があると分析した。

これから飲食の消費を伸ばしていくためにもお店などと協力しながら情報を進め、外国人観光客の受入れ環境を整えていきたいと決意を新たにされていました。

パネルディスカッション



「パネルディスカッション」では中央大学教授、細野 助博氏がコーディネーターとなり、「グローバル都市観光」「ビジネス拠点」「人材育成」というトピックスで、活発な議論が交わられました。

明治大学 留学生
カオ・ユーチャン氏

（株）ぐるなび
杉山 尚美氏

（株）リエゾン・デイトル
酒井 由紀子氏

（株）日本総合研究所
東 博暢氏

（株）丸井グループ
青木 正久氏

中野区長
田中 大輔

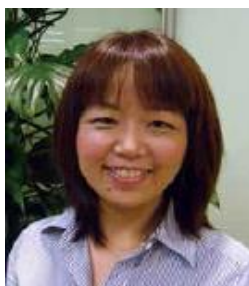
中央大学 教授
細野 助博氏

【トピックス① グローバル都市観光について】



酒井氏

インバウンドについて提案したい。現在、大人向けの施策はたくさんあるが、観光客の子供向け施策は意外とない。遠方から来られるお客様は、長期滞在



杉山氏

海外の方に中野というキーワードを知ってもらうことは難しい。何をテーマに発信をするかを明確に持つ必要があると思う。また、テーマがアニメだと



宮崎県で開催した

イベントでは物販だけでなく体験型イベントを実施した。県内のお客様だけではなく、東京、関西からのアニメファン、一部外国の方

もいらつしやった。今までのように物だけ売って、お客様が満足される時代はもう終わりだと思っている。

宮崎県で開催したイベントでは物販だけでなく体験型イベントを実施した。県内のお客様だけではなく、東京、関西からのアニメファン、一部外国の方

海外の方に中野というキーワードを知ってもらうことは難しい。何をテーマに発信をするかを明確に持つ必要があると思う。また、テーマがアニメだと

それが多いと多く、特に夏休みなどは10日とか2週間家族連れでいらつしやる。その際、親子で関心が違うためお互いに妥協している時間がある。

それを解消するために、インバウンド観光客の子供たちにサマースクールを提供したい。中野でこの子供たちを預かるスクールがあったら面白いと思う。子供たちを預かるスタッフとしては中野にある豊富な人材、特に明治大学、帝京平成大学、早稲田大学の学生や留学生にも参画してもらえたら面白いのではと思っています。

東氏

これからは情報通信があらゆる分野に入ってくる。情報通信の世界では、ネットワークの外部性といい、どんどんネットワークが外とつながると、その根幹のプラットフォームの価値が

向上し、新たな価値が創発されるという考え方があ。ここで重要な点は、いい感じで「ごちやごちや」しているということ。昔は、街中に文化人・経済人がこっそり出会う小さなお店などの場所が沢山あった。そこで人が出合い色々なアイデアが生まれたものだが、今はそういう環境が減ってきた。ある程度の複雑系というのは、非常に重要だと思っている。中野には、飲食店も独自の文化も沢山ある。かなり特殊な街で可能性はすごくあると感じる。

細野氏

「ごちやごちや」して何か分からない、本当にボタ山みたいな所が成長する。イギリスではバーミンガムが伸びた。ごった煮、カオスというのはどんどん新しく出てくる、そういう街づくりというのは、一つの戦略としてとても大事。

【トピックス② ビジネス拠点について】

Q・新しいビジネスを生み出すために必要なことについて。

東氏

シリコンバレーなどでは、投資を求めて来た起業家に対し、一緒に事業計画を立ててくれるような伴走者、メンターといわれる人がたくさんいる。結果、実際にモデル事業が生まれ、投資が行われたり、さらに企業に買収されるなど、エコシステムがグルグル回っている。こうした環境を機能として街が持てるかというのがすごくポイントである。これは、計画してがっちり作ってしまうとうまくいかない。雑多、ごみごみした空間で自然と発展していく。中野にはそういうポテンシャルがあるから、これから都市開発を進めて、こういう機能をどこに入れるのかというのが大事になってくる。

また、いつも同じようなメンバーでは類似のアイデア・発想しか出ないので、全く違う業界から新しいアイデアや動きが出てこないといけない。丸井さんみたいに、アニメを使ってこうしようとかという人たちがどんどん増えてくると、かなり可能性があると思う。

青木氏

アニメの聖地が秋葉原、池袋、中野と言われているので、新たなコラボみたいなところも、中野の可能性というのはあるかなと思っている。当社の強みとしては、ファッションから発信している会社なので、アパレルメーカーと、アニメのコラボの中継ぎ、マッチングのサービスもできるのでと

青木氏(続き)

まさに東さんがおっしゃられるような、後発組という部分は弱みではあるけれども、異業種と言う部分は強みというふうに考えている。

細野氏



森ビルが世界の都市の競争力を前から評価していた。日本がその中で特に弱いのは不動産周りのコストがあまりにも高過ぎること。日本で開業したいとかいろいろな人がいるかもしれないが、なかなか地代が高過ぎる。そういう所を逆転の発想で、交通の利便性があるのにこれだけ安いんだよと逆に言った方が結果的に上がるということになる。それも一つの手ではないかなという気がする。

杉山氏

個人的には言葉で言うと、ディープとかカオスみたいな、あそこはなかなかこれだけまとまってある場所はないと思う。このインバウンドにしろ、国内観光にしろ、どういう魅力の配信の仕方をすれば、それが価値になるかというところは、議論だと思う。

創業していく人にとって日本には良いデータが少ないので、チャンスをとんとんと与えていくべきだと思う。中野区の取り組みとして起業のハードルを下げていただき、起業する人が増えていくようなことまでつながれば素晴らしいなと思う。

Q・中野でどのような人材を育てることが必要か、またその課題について。

酒井氏

語学も必要になってくると思うが、異文化の異なる点をしっかりと受け入れられる人がグローバルな人材だと思っている。日本人はどちらかというところ、違いに対してあまり受け入れることが得意でない部分があり、海外展開する企業の手伝いをしていても、様々な違いに直面するとびっくりしてしまい理解できなくなることもある。お互いにどう妥協点を見つけてよいかとか、歩み寄れる部分はないかという発想をすることで共生して行くことにながっていくのではないか。

東氏

日本は居心地が良過ぎる。安定しているし、若い起業家との連携にインセンティブが働かにくいことも多い。シリコンバレーはアメリカでは無く、すごく独特な地域なので、世界中から優秀な人材と資金が集中し、新しいことを生み続けたいといけないという危機感も働いている。今後コンセプトが示せ、クリエイティブ、オリジナリティ、イノベーションを有する人材を育成することが最も重要で、中野にはそういう人材が潜在的に多いと感じる。

カオ氏



言語だけではなくて文化を理解するのが実は一番キーポイントだと思う。自分は翻訳とか通訳をやっていた時は、そのままの意味で訳さない。文化を理解しながら訳すと、話している言葉をもっと理解できる。それで初めてコミュニケーションになる。

田中区长



オックスフォードのある研究者が、10年、20年たつたら47%の仕事がなくなると言われました。そうなっていった時に、残るものは何といたら人間であり、文化であり、ケアであり、ライフであると思う。われわれとしてはそういうのはつきりした方向性みたいなことを見据えて、中野区の産業振興というものの軸を作っていくという方向性をきちんと見据えた上で、起業創業、業種転換、そういうことを誰もが当たり前にこの中野でチャレンジできるように、そういう形の街を目指していきたいと思っている。

事務局からのお知らせ

【平成28年度総会の開催報告】

5月30日、平成28年度総会において「平成27年度事業報告」「平成28年度事業計画」が承認されました。

【ワーキンググループについて】

7月より事業コンソーシアムの組成に向けたワーキンググループを立上げ、検討を開始いたします。